

2024年3月吉日

福岡県立大学
学長 柴田 洋三郎 殿

動物実験に関する検証結果の報告について

貴機関より依頼のありました、動物実験の実施状況に関する検証について、提出された資料と訪問調査により検証結果をまとめましたので、別添のとおり報告いたします。検証実施証明書も同封させていただきます。

なお、文部科学省「研究機関等における動物実験等の実施に関する基本指針」では、検証の結果を、インターネットの利用、年報の配布その他の適切な方法により公表することとなっておりますので、申し添えます。

公益社団法人日本実験動物学会
外部検証委員会 委員長 越本 知大



No.2023-14

Japanese Association for Laboratory Animal Sciences



CERTIFICATE

President Dr. Yosaburo Shibata
Fukuoka Prefectural University

Dear President

In every Japanese institution under the jurisdiction of Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology, MEXT, self-inspections and evaluations for the conduct of animal experiment and related activities must be verified by a third party, independent of the research institution concerned.

Japanese Association for Laboratory Animal Science (JALAS) certify that Fukuoka Prefectural University received "Assessment and Verification Program for Care and Use of Laboratory Animals in 2023".

Sincerely yours

10 March, 2024

A handwritten signature in black ink, appearing to read "Ichiro Miyoshi".

Ichiro Miyoshi DVM PhD
DJCLAM
President
JALAS

A handwritten signature in black ink, appearing to read "Chihiro Koshimoto".

Chihiro Koshimoto PhD
Chairman
Assesment and Verification
Committee, JALAS

日実動学-外検発 第R6-14号-証

検証実施証明書

福岡県立大学
学長 柴田 洋三郎 殿

貴機関は 公益社団法人日本実験動物学会
外部検証委員会による「動物実験に関する
外部検証事業」による自己点検・評価を行い
その結果に対する検証を本委員会が実施した
ことを証します

2024年3月10日

公益社団法人日本実験動物
理事長 三好 一郎



動物実験に関する検証結果報告書

福岡県立大学

動物実験に関する外部検証事業

(公益社団法人日本実験動物学会)

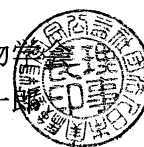
2024年3月

日実動学-外検発 第R6-14号-報
2024年3月10日

福岡県立大学
学長 柴田洋三郎 殿

貴機関における動物実験の実施体制に関して、提出された自己点検・評価報告書に対する検証結果を通知します。

公益社団法人日本実験動物学協会
理事長 三好 一



対象機関：福岡県立大学
申請年月日：2023年7月31日
訪問調査年月日：2023年12月12日
調査員：大沢一貴、佐加良英治

検証の総評

福岡県立大学は、福岡県社会保育短期大学を前身とし、1992年に田川市に開学した公立大学法人である。人間社会学部、看護学部、大学院人間社会学研究科、看護学研究科（2学部2研究科）を擁し、動物実験は人間社会学部、人間社会学研究科の教育と研究、看護学部の研究で実施されている。文部科学省の「研究機関等における動物実験等の実施に関する基本指針（以下「基本指針」という。）」並びに環境省の「実験動物の飼養及び保管並びに苦痛の軽減に関する基準（以下「飼養保管基準」という。）」に概ね適合した「公立大学法人福岡県立大学動物実験規則（以下「動物実験規則」という。）」を制定している。実験動物の飼養保管はげっ歯類を中心に行っている。動物実験実施者は少ないものの、実験動物管理者自らが動物実験及び飼養保管の体制整備の中心となり、外部から情報を収集し、繰り返し外部検証を受けるなどの積極的な姿勢は評価できる。しかしながら、動物実験の実施体制の整備や実施状況の把握、改善が十分でない点も散見される。したがって、動物実験の最終責任を有する学長の指導の下、大学事務組織等と協力して、早急に適正な動物実験の実施体

制を構築されたい。